女　神

山野つつじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
女　神

【Ｎコード】
Ｎ３６３４Ｙ

【作者名】
山野つつじ

【あらすじ】
彼女は軽やかに美しく、僕の前に現れる。今日こそと思い、僕は彼女に彼女を崇拝する証として花束をささげるのだが…。

今日も僕は、彼女に会いに来ている。
もうかれこれ、二年になるだろう。
いつも決まった時間に、彼女は現れる。
時には激しい音とともに、またある時には悲しい調べとともに。
今日の僕は、かなり緊張していた。
なぜなら、僕はこっそり彼女に渡すバラの花束を持っていたから。
どこからともなく、うきうきするような音が響いてきた。
そろそろ彼女が現れる頃だ。
暗い視界に、明かりが灯る。

彼女だ。

美しい白い肌、動くたびに体の動きと共に揺れる長い髪。
彼女との距離が近くなる度に、優しい女の匂いが僕の鼻をくすぐる。
彼女がまとっている布の全てが、まるで生き物のように宙にふわりと浮く。

嗚呼、なんて美しいんだ。

彼女を見つめる眼は、僕の眼だけじゃない。
ギラギラした眼、愛でるような眼、見開かれた眼。
それらは全て、彼女に魅了されている目なんだと僕は思う。
彼女はそんな眼などものともせずに、飛ぶように動き、跳ねるように舞う。
世の中のどんな汚れた出来事も、彼女が全て浄化していくような気さえする。

彼女は、女神だ。

他の誰がなんと言おうと、僕にとって彼女は女神と同じ存在なんだ。

本当は、彼女を僕一人のものにしておきたい。

これは男としては、当たり前の欲求なんだとは思う。

だけど、彼女の女神のような美しさと振る舞いは、そうはさせてくれないのだろう。

僕は彼女の美しさと優雅さの前に、ただひれ伏して崇拝するしかない。

彼女の動きが止まった。

そして、うなだれた顔を正面に向けた時、僕は我慢できずに彼女に近寄った。

僕の彼女を崇拝する証を示す、バラの花束を差し出した。

彼女の眼は、潤んで優しい笑みを僕に向けた。

僕は、天にも昇る気持ちになった。

それと同時に、他の男達の鋭い視線を痛いほど感じてた。

彼女が僕に、握手の手を向けた。

嗚呼、もう我慢できないっ。

僕は彼女の手を握り締め、僕に引き寄せた。

このまま抱きしめたい。

抱きしめて、僕一人のものにしてしまいたい。

僕は無我夢中で触れることのできる彼女の体を、手の平で堪能しようとした。

すると、僕の頭上から低く冷たい声が響いてきた。

「踊り子さんには、くれぐれも手を触れないでください。」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3634y/

女　神

2011年11月9日01時05分発行